

令和5年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立 西が岡小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和5年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和5年4月18日(火)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

4 本校の実施状況

第4学年	国語	64人	算数	64人	理科	64人
第5学年	国語	49人	算数	49人	理科	49人

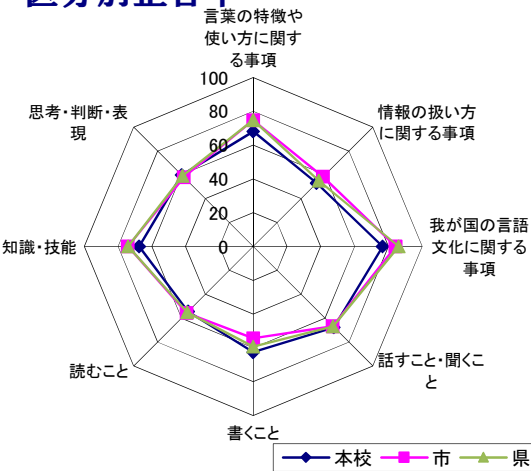
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立西が岡小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	68.1	74.7	74.8
	情報の扱い方にに関する事項	53.1	58.4	55.0
	我が国の言語文化にに関する事項	76.6	84.3	86.1
	話すこと・聞くこと	67.6	66.7	66.9
	書くこと	62.5	54.3	59.3
	読むこと	54.5	55.6	55.2
観点	知識・技能	67.5	74.1	74.0
	思考・判断・表現	59.8	58.0	59.1



★指導の工夫と改善

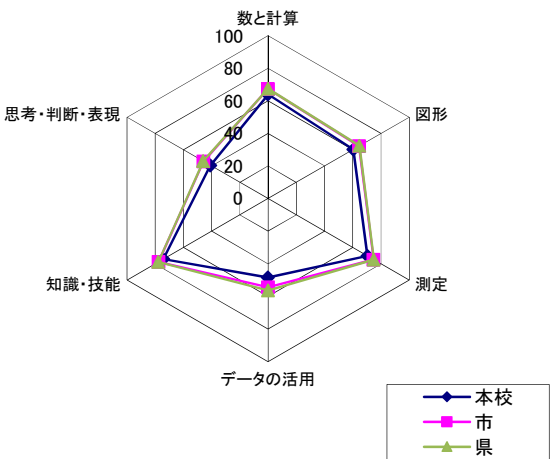
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	平均正答率は、市の平均より低い。 ○漢字を正しく読むことがよくできている。反復練習やデジタル教科書の活用等が成果として考えられる。 ●漢字を正しく書くことには課題が見られる。	・今後も反復練習やデジタル教科書の活用、読書活動を推進し、語彙力をつけていく。 ・漢字練習は家庭学習で取り組ませるなど繰り返し行い、定着させる必要がある。熟語や短文づくりを取り入れながら漢字の習熟を図る。
情報の扱い方にに関する事項	平均正答率は、市の平均より低い。 ●言葉の意味の理解について課題が見られる。	・語彙力を増やすため、読書活動や、各単元での国語辞典での調べ学習の時間を増やす。
我が国の言語文化にに関する事項	平均正答率は、市の平均より低い。 ●漢字のつくりや部首についての理解に課題が見られる。	・漢字の指導をする際には、つくりや部首を意識させる指導をし、漢字練習では、同じ部首の漢字を練習させたり、漢字辞典から同じ部首の漢字を集めさせて練習させたりするように工夫する。
話すこと・聞くこと	平均正答率は、市の平均よりやや高い。 ○話を聞いて大まかな内容を捉えることができる。内容を問う質問では、選択肢の中から正しい答えを選ぶことができる。必要なことを記録しながら聞き、話し手が伝えたいことを捉えるよう日常的に指導してきた成果が表れている。 ●話し手が伝えたいことの中心を捉え、言葉で表すことに課題が見られる。	・今後も、自分の考えをもち表現できるよう話し合い活動を授業等で取り入れる。 ・メモを取りながら聞くなど、話し手が伝えたいことの中心を捉えることができるような話の聞き方を引き続き指導していく。授業のみならず、日常生活においても聞く態度について関心を高めているよう言葉かけをしていく。
書くこと	平均正答率は、市の平均より高い。 ○文字数に合わせて自分の考えを文章で表すことができる。授業の振り返りなどの場で、条件に合わせて自分の考えをまとめる場を設けてきたことが成果として考えられる。 ●段落の構成を理解して文章を書くことに課題が見られる。	・今後も、いろいろな場面で条件に合わせて自分の考えをまとめる場を設け、表現力を育てていく。 ・書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章を書く場を設ける。
読むこと	平均正答率は、市の平均よりやや低い。 ○登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述をもとに捉えることができる。物語文の学習において、文章全体を見通して、複数の叙述をもとに行動や気持ちを捉える学習の成果が表れている。 ●内容の中心となる語や文を選んで要約することに課題が見られる。	・今後も読書を推進するとともに、文章を読んで感じたことや考えたことをみんなで共有したり、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付かせたりすることを通して、物語を読み取る力を育てていく。 ・文章全体の内容を正確に把握したうえで、もとの文章の構成や表現をそのまま生かしたり自分の言葉を用いたりして、要約する学習の場を増やしていく。

宇都宮市立西が岡小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	63.9	67.3	67.4
	図形	60.3	64.5	64.7
	測定	70.3	74.7	74.9
	データの活用	48.4	54.4	56.4
観点	知識・技能	74.2	77.6	77.8
	思考・判断・表現	40.9	45.8	46.1



★指導の工夫と改善

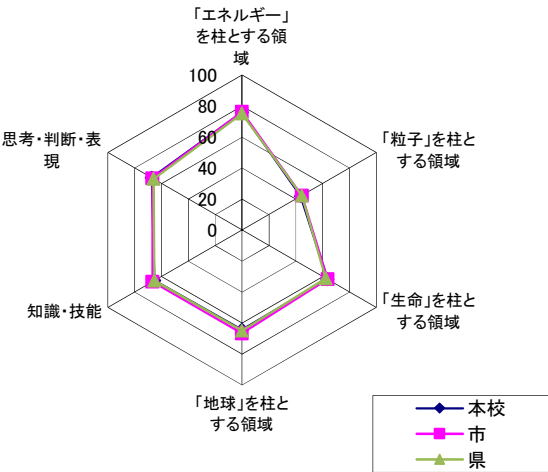
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は、市の平均より低い。 ○数直線で、目盛りが表す数の大きさを分数で答えることができる。練習問題を繰り返し行い、習熟を図った成果であると考えられる。 ●分数の表す正しい大きさを答える問題では、課題が見られる。	・分数の表し方をはじめ基礎的な内容が理解できていないため、具体物の操作等をより多く取り入れることで理解を深めさせたい。 ・分数の大きさについては、3・4年生を通じて数直線を用いた指導を大切にし、1を何等分したかに着目させながら、分母と分子の意味を理解できるようにする。
図形	平均正答率は、市の平均より低い。 ○円の性質からコンパスを使って正三角形が作図できることを説明する問題では、市の平均より高いものの、宇都宮市全体的に正答率が低い。 ●円の半径と直径についての理解に課題が見られる。	・円の「半径」と「直径」の言葉や意味等、基礎的なことが定着していないため、繰り返し練習問題を行う。 ・基礎的内容の定着を図るために、意図的に家庭学習等で、作図等の課題に取り組ませていく。
測定	平均正答率は、市の平均より低い。 ○上皿自動秤の目盛りを読み取り、重さを答える問題では、正答率が市の平均と比較すると低いものの、他の問題と比べると正答率の差は1.7%と少ないものである。 ●時間が経過する前の時刻を求める問題では、課題が見られた。	・小数を数直線上に表す活動を通して、端数部分の表現と重さの単位を確認する。 ・問題を解くための手立て(図や絵)について指導しておくとともに、類題に取り組ませる。 ・ある時刻からある時間前の時刻を計算で求めたり、時間のまとまりやきりのよい時刻に着目したりする問題を、日常生活と関連付けながら取り上げる。 ・実態に応じて、時計模型を操作しながら問題に取り組ませる。
データの活用	平均正答率は、市の平均より低い。 ○複数の棒グラフから、条件に合うデータを読み取ることができる。様々な棒グラフからデータを読み取る練習を繰り返し行った成果であると考えられる。 ●最小目盛りが異なる2つの棒グラフを読み取り、関連付けて考えることに、課題が見られた。	・他教科でも、最小目盛りの大きさに着目させながらグラフを正しく読み取らせたい。 ・異なる目盛りの付け方で表した複数のグラフを比較したり、何種類かのグラフ用紙の中から適切な用紙を選択したりする活動を積極的に取り入れるようにする。 ・授業の振り返りや朝の学習等を利用し、応用問題に取り組ませる。

宇都宮市立西が岡小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	75.9	76.2	75.1
	「粒子」を柱とする領域	43.8	44.5	44.5
	「生命」を柱とする領域	63.6	63.6	62.3
	「地球」を柱とする領域	64.4	66.6	64.9
観点	知識・技能	65.4	66.8	65.4
	思考・判断・表現	67.3	66.8	65.9



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
「エネルギー」を柱とする領域	平均正答率は、市の平均と同じである。 ○ゴムを伸ばす長さや車の動く距離に関する実験の結果から、ゴールに車を止めるために必要なゴムの伸ばし方を考えることができた。実験結果を予想することや結果について予想と比べること、結果をまとめることを繰り返してきた成果が表れている。 ●電気を通す鉄やアルミニウム、銅が金属であることの理解に課題が見られる。	・今後も、実験結果を予想すること、結果について予想と比べること、結果をまとめることの授業の流れを大切にし、繰り返し指導していく。 ・根拠に基づいた予想を立ててから実験を行うことで、既習内容を生かして考えを進めるような授業展開を心掛ける。 ・金属製品の名称を記入し、問題の意図の捉え方を誤った回答が多かった。聞かれていることが何なのかを理解できるよう、他教科との関連を図りながら、読む力を身に付ける。
「粒子」を柱とする領域	平均正答率は、市の平均より低い。 ○物の重さから同じ種類の木でできている積み木を推測し選ぶことができた。身の回りにある物を、広げたりいくつかに分けて丸めたりして形を変え、重さを比較する実験を丁寧にに取り上げた成果が表れている。 ●姿勢を変えて測った体重が変化するかを、実験の結果をもとに考え、その理由を記述で説明することに課題が見られる。	・今後も、体感を通して調べる実験を丁寧に取り上げる。 ・実験の結果については、正しい答えを導き出すことができた。理由の記述については、普段の授業から2つ以上の事柄を関連付けて考えさせたり比較して考えさせたりすることを通して、自分の考えをノートにまとめたり、発表したりするような授業展開を心掛ける。
「生命」を柱とする領域	平均正答率は、市の平均とほぼ同じである。 ○クモが昆虫ではない理由を、体のつくりやあしの数の違いから記述することがよくできていた。観察や実験からわかったことを、自分の言葉でまとめて記録することを積み重ねてきた成果であると考えられる。 ●アゲハが卵を産みつける場所の理解については、モンシロチョウとの区別に課題が見られる。	・今後も、生き物の飼育・栽培を実際に行い、見方を示して観察させ、知識を定着させたい。また、記述式問題にも対応できるよう、気付いたことを自分の言葉でまとめる活動を引き続き取り入れていく。 ・モンシロチョウについては、キャベツを教材園に植え、卵を産みつける場所について実際に見ることができたが、アゲハについては見ることはできなかった。実体験に伴って知識を定着させることができるよう、ICTの活用等、教材について工夫していく。
「地球」を柱とする領域	平均正答率は、市の平均よりやや低い。 ○日なたと日陰の地面の温度の変化を理解し、正午ごろの温度計の様子を選ぶことができていた。実験結果を差異点や共通点に着目させながらまとめた成果が表れている。 ○太陽の位置の変化を、方位を表す言葉を用いて説明することができていた。方位を確認した上で、天候の良い日を選んで記録し、太陽の位置が変化することをしっかりと押さえた成果が表れている。 ●選択肢の文章を正確に読み取り、正しい温度計の使い方を選ぶことに課題が見られる。	・今後も、実験結果を予想することや結果について予想と比べること、結果をまとめることの授業の流れを大切にし、繰り返し指導していく。 ・日なたと日陰の地面の温度の差の調べる活動については、温度計で測定するだけでなく、手や足で地面に触れるなど体感を通して感じるができるようにする。 ・図で示されていない、文章だけの選択肢の中から正しいものを選ぶことができなかった。器具の使い方、実験の仕方などについて、絵や図での表示を簡潔に文章で説明できるように指導をしていく。また、他教科との関連を図りながら、丁寧に文章を読むこと、場面を想像しながら文章を読むことを意識付ける。

宇都宮市立西が岡小学校 第4学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で学校の宿題をしている」、「学校の宿題は、自分のためになっている」、「学習して身に付けたことは、しょう来の仕事や生活の中で役に立つと思う」と回答した児童の割合は全て95%を超えており、家庭学習の重要さを認識し、進んで取り組んでいる様子がうかがえる。宿題や自主学習ノート、リレー自主学習ノートを確認して励ましの言葉を掛けたり、「学習チャレンジ週間」により親子で学習習慣について見直す機会を設けたりして、児童の学習意欲や自己肯定感を高めてきた成果が表れている。

今後も、これまで通り日々の取組を継続し、学年・学級懇談会、学年だより等での意識啓発を行いながら、家庭と連携して学習習慣の定着を図っていききたい。

○「友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができています」、「ものごとを最後までやりとげて、うれしかったことがある」と回答した児童の割合は全て95%を超えており、話を聞く態度や最後までやり遂げようとする意欲が育まれていることがうかがえる。課題を解決した喜びを感じられるよう一人で考える時間を確保したり、対話により考えを広めたり深めたりできるようペア学習やグループ活動を取り入れたりするなど、学習形態を工夫してきた成果が表れている。

今後も、主体的・対話的で深い学びの実現に向け、授業形態を工夫していききたい。

○「毎日、朝食を食べている」、「家の人と学校でのできごとについて話をしている」、「自分は家族の大切な一員だと思う」と回答した児童の割合は全て95%を超えており、県の平均を上回っていた。このことにより、家庭において必ず朝食を食べるという基本的な生活習慣が堅持され、家族とのコミュニケーションも良好であることがうかがえる。

今後も、学年・学級懇談会、学年だより等での意識啓発を行い、家庭と連携していききたい。

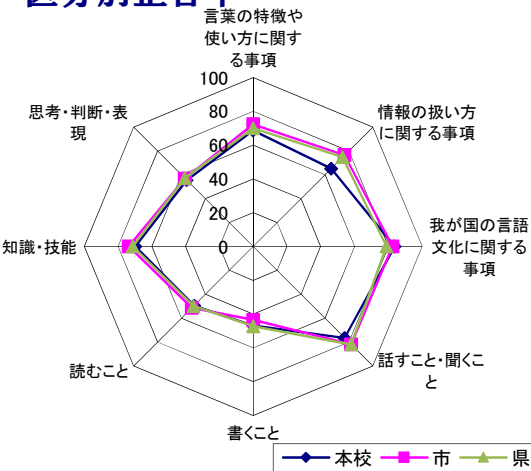
●「家で、学校やじゅくの決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている」、「家で、テストでまちがえた問題について勉強している」と回答した児童の割合は70%に満たない。このことから、自分に合った自主学習の内容を考えることを苦手とする児童が多い傾向がみられる。

今後、工夫して学習に取り組んでいる児童を教室で紹介したり、模範的な児童の自主学習ノートをコピーして教室に掲示したりすることで、意欲を引き出したり、参考にして取り組んだりすることができるよう支援したい。

宇都宮市立西が岡小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	68.7	72.3	70.0
	情報の扱い方にに関する事項	65.3	76.4	74.9
	我が国の言語文化にに関する事項	83.7	82.4	78.9
	話すこと・聞くこと	76.5	81.9	82.0
	書くこと	46.9	43.5	47.2
	読むこと	49.5	51.4	49.8
観点	知識・技能	69.8	73.6	71.3
	思考・判断・表現	55.6	57.1	57.2



★指導の工夫と改善

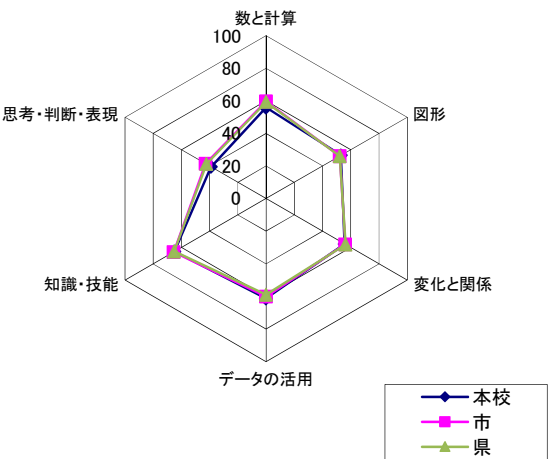
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	平均正答率は、市の平均より低い。 ○様子を表す語句を、文章のなかで正しく使うことができる。読書を通じて様子や行動、気持ちや性格を表す語彙が身に付いている。 ●漢字を正しく書くことには課題が見られる。	・今後も、語彙力を増やすため、読書活動や、国語辞典での調べ学習を増やす。 ・漢字練習は家庭学習で取り組ませるなど繰り返し行い、定着させる必要がある。熟語や短文づくりを取り入れながら漢字の習熟を図る。
情報の扱い方にに関する事項	平均正答率は、市の平均より低い。 ●漢字辞典の使い方について課題が見られる。	・漢字辞典の使い方を再度確認するとともに、手元において必要な時にはいつでも使えるような環境を作るようにする。
我が国の言語文化にに関する事項	平均正答率は、市の平均よりやや高い。 ○文章に合うことわざを選択肢から選ぶことができる。ことわざを調べ、ワークシートにまとめクラス全体で冊子を作り、互いに感想を伝え合う等の十分な学び合いの成果が見られた。	・今後も、調べ学習や感想を伝え合う等の学び合いの場を十分に設け、言葉の意味を知り、日常生活で用いるよう働きかけかけていく。
話すこと・聞くこと	平均正答率は、市の平均より低い。 ○話し手が伝えたいことの中心を捉えることができる。必要なことを記録しながら聞き、話し手が伝えたいことを捉えるよう日常的に指導してきた成果が表れている。 ●話を聞いて、自分の考えをもち表現することに課題が見られる。	・今後も、メモを取りながら聞くなど、話し手が伝えたいことの中心を捉えることができるような話の聞き方を引き続き指導していく。授業のみならず、日常生活においても聞く態度について関心を高めていく。 ・自分の考えをもち表現できるよう、話し合い活動を授業等で取り入れたり、発表する機会を設けたりする。
書くこと	平均正答率は、市の平均より高い。 ○文字数に合わせ、事実と自分の考えを分けて、文章で表すことができる。授業の振り返りなどの場で、条件に合わせて自分の考えをまとめる場を設けてきたことが成果として考えられる。 ●段落構成を考え文章を書くことについては、やや課題が見られる。	・今後も、いろいろな場面で条件に合わせて自分の考えをまとめる場を設け、表現力を育てていく。 ・書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の推敲支援をする。
読むこと	平均正答率は、市の平均より低い。 ○文章を読んでおおまかな内容を捉え、他者の感じたことや考えたことを理解できる。読解力を高める活動や、他者と感じたことや考えたことを共有し合う等、学び合う学習に力を入れてきた成果が表れている。 ●言葉を手掛かりに、内容を正確に読み取ることに課題がある。	・今後も、文章を読んで感じたことや考えたことをみんなで共有し、読解力を高める活動に取り組ませていきたい。気持ちや様子が表れている表現に着目させることで、叙述に即した読み取りができるようにする。 ・中心となる語や文に着目させながら、内容を読み取る活動を取り入れる。

宇都宮市立西が岡小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	55.9	59.7	59.2
	図形	53.1	52.1	52.1
	変化と関係	55.6	56.1	56.3
	データの活用	61.2	60.1	58.9
観点	知識・技能	65.0	65.5	65.1
	思考・判断・表現	39.0	42.9	42.4



★指導の工夫と改善

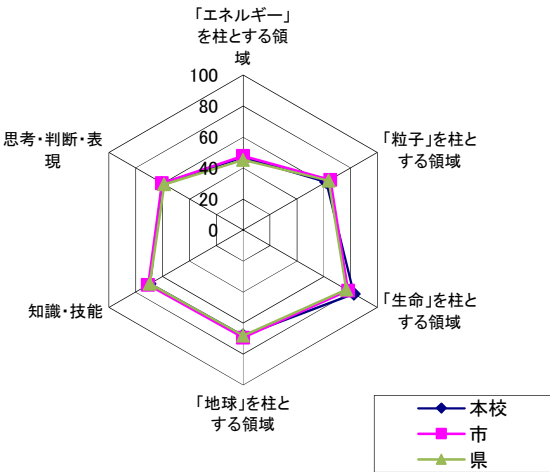
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は、県の平均よりも低い。 ○10桁の大きい数の読み方について問う問題がよくできている。4桁に区切り数のまとまりに着目して大きな数の唱え方や表し方を考える活動を繰り返し行い、習熟を図った成果であると考えられる。 ●「小数÷2けたの整数」の筆算の計算処理に課題が見られる。	・今後も、数のまとまりに着目し、大きな数の大きさの比べ方や表し方を捉えさせるようにする。 ・基本的な計算の定着に向けた繰り返し練習を継続していくとともに、答えを見直し確認する活動を習慣付ける。 ・「小数÷2けたの整数」では、小数の仕組みをもとに位や小数点をそろえて計算できるよう、やり方を説明したり練習問題に取り組んだりする活動を積極的に取り入れる。
図形	平均正答率は、県の平均よりもやや高い。 ○三角定規の角度の理解を問う問題がよくできている。三角定規の角を使っておよその角の大きさを捉える学習を行ってきた成果であると考えられる。 ●身近なものの面積と単位との関連性についての理解に課題が見られる。	・今後も、三角定規の角をはじめ、180度、360度などの角の大きさに対する感覚を身に付け、見当を付けながら角の大きさを測定する技能を養う。 ・図形の面積を求める学習では、多様な解決方法を生み出し、考察する活動を通して、筋道を立てて考えられるようにしていく。 ・身のまわりの机や教室、学用品などの面積を予想してから求めたり、100cm ² や100m ² などに近い面積のものを探したりする活動を通して、面積の大きさについての量感を育てる。
変化と関係	平均正答率は、県の平均よりもやや低い。 ○伴って変わる2つの数量について、一方の数が1増えともう一方の数はいくつになるのか問う問題がよくできている。一方の数量が増加するときの他方の数量の増減の様子を捉え、2つの変化する数量の関係に着目させるよう授業で取り組んだ成果であると考えられる。 ●伴って変わる2つの数量について、変化の特徴を言葉や数で表すことに課題が見られる。	・今後も、具体的な場面において、伴って変わる2つの数量があることに着目し、表に表したり、○や△を使った式に表したりしながら、数量の関係について考えることができるようにする。 ・伴って変わる2つの数量について、一方の数量を決めれば他の数量が決まるか、2つの数量の変化に決まりはあるのかを問い、見方を指導する。 ・自分の考えをまとめ、図や式などを用いて発表する活動を積極的に取り入れていく。
データの活用	平均正答率は、県の平均よりも高い。 ○二次元の表を読み取る問題がよくできている。2つの観点から分類整理された二次元表の見方について、確認したり練習をしたりした成果が表れている。 ●2種類のデータが入った折れ線グラフの読み取りに課題が見られる。	・今後も、目盛りの幅や数値などに気を付けてグラフを正しく読み取れるよう指導する。 ・算数の時間だけでなく理科や社会・総合的な学習の時間など、教科に関わらず取り上げ、折れ線グラフや二次元の表の読み取りに慣れるようにする。

宇都宮市立西が岡小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	46.9	47.8	45.3
	「粒子」を柱とする領域	62.0	64.9	63.6
	「生命」を柱とする領域	82.5	78.2	76.8
	「地球」を柱とする領域	68.2	69.5	68.1
観点	知識・技能	69.5	70.8	69.5
	思考・判断・表現	60.3	60.5	58.8



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
「エネルギー」を柱とする領域	平均正答率は、市の平均よりやや低い。 ○乾電池の数やつなぎ方を変えると、電流の大きさや向きが変わり、モーターの回り方が変わることを理解している。一人一人が回路を組み立てて実験し、結果から考える過程を大切にして指導を行った成果が表れている。 ●「並列つなぎ」の言葉の理解に課題がある。	・今後も、実験結果を予想すること、結果について予想と比べること、結果をまとめることの授業の流れを大切にし、繰り返し指導していく。 ・量的、関係的な視点で捉え、関連付けて考える理科の見方・考え方を児童に示し、身に付けさせる。 ・実験を行う際は、一人一人に回路を組み立てさせたり、電池の配置や銅線のつながり方を分かりやすくノートにまとめたりするなど指導を工夫し、回路の仕組みについて理解できるようにする。 ・学習のまとめの段階で、理科用語を使ってまとめる指導を継続する。
「粒子」を柱とする領域	平均正答率は、市の平均より低い。 ○ボールに空気を入れると弾む理由を、「押し返す力」という言葉を使って理解できている。空気や水を押し縮めたときの体積や押し返す力の変化を、一人一人が注射器を使って実験し、体感した成果が表れている。 ●水と空気を温めたときの体積の変化の違いを理解することに課題がある。	・今後も、体験的な活動や実験に興味をもって取り組めるような授業づくりを心がける。 ・学習のまとめの段階で、理科用語を使ってまとめる指導を継続する。 ・水と空気の温度による体積変化について、実験で得られた結果が日常生活のどの事象と関連しているかを考えさせる。
「生命」を柱とする領域	平均正答率は、市の平均より高い。 ○動物の活動や植物の成長と季節の変化についてよく理解している。季節ごとの身近な動物の活動の様子や植物の成長を、季節の変化に着目して継続的に調べた結果が表れている。 ○腕を曲げた時の筋肉の様子についてよく理解している。自分の腕を触ったり模型や映像を活用したりして捉えさせた結果が表れている。 ●春や夏の気温と動物の様子の関係性の理解に課題が見られる。	・今後も植物や動物などを1年を通じて観察を行い、生き物を愛護する指導を継続していく。 ・休み時間や体育の時間などで体全体を使って運動する時に、運動と骨や筋肉の働きを話題にし、関連付けて考えさせることを心がける。 ・冬の動物の活動に関心をもち、継続して観察させることで季節との関わりを感じられるようにする。
「地球」を柱とする領域	平均正答率は、市の平均よりやや低い。 ○天気の様子と気温の変化を文章で表現することができている。晴れの日、曇りの日、雨の日の気温の変化を実際に計測し、グラフ化して特徴を考える活動を取り入れた成果が表れている。 ●天気の決め方への理解に課題がある。	・自分の考えを理科用語を使ってまとめる指導を大切にし、今後も継続していく。 ・学習したことをもとに、天気について日常生活の中で確認する場面を設ける。

宇都宮市立西が岡小学校 第5学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの
○「自分には、良いところがあると思う」と回答した児童の割合は87.8%で、県の平均を8.1ポイント上回っていた。このことにより、自己肯定感が高い児童が多いことがうかがえる。学校経営の方針として自己肯定感を育む学級経営を第一に掲げ、出来たことを認め褒めるなど温かく共感的な関わりを続けてきた成果が表れている。 今後も、一人一人のつもよさや特性を認め、自信と意欲を育む居がいのある学校・学級づくり、自主性を育てる教育活動の展開に努めていきたい。	
○「家の人は、あなたが褒めてもらいたいことを褒めてくれる」と回答した児童の割合は93.9%で、県の平均を8.3ポイント上回っていた。このことにより、家庭環境が良好で、児童は保護者に見守られながら温かい言葉を掛けてもらっていることがうかがえる。 今後も、家庭と情報を共有し、児童を見守ってきたい。	
●「普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間テレビやDVD、動画などをみたり、聞いたりしますか(TVゲームはのぞく。)」で否定的な回答をした児童の割合は44.9%で、県の平均を10.6ポイント上回っていた。特に、4時間以上と答えた児童が34.7%で、県の平均を15.7ポイント上回っていた。これらのことから、テレビ等の視聴時間が長い児童が多いことが分かる。 今後、生活リズム(睡眠時間の確保)や目の健康、家庭学習の時間の必要性などの指導を行うとともに、保護者への啓発を図りたい。	

宇都宮市立西が岡小学校 (第4・5学年共通)
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
学習意欲を高める指導の工夫	・興味を高める導入や課題提示の工夫 ・体験的学習や課題解決的な学習の積極的導入 ・自力で課題解決にあたる時間の確保 ・ペア学習、グループ活動など最適な学び合いの場を設定し、対話による課題解決の場の工夫 ・ICT機器や一人一台端末、図書等の効果的な活用	・4・5年生ともに、「勉強をしていておもしろい、楽しいと思うことがある」、「本やインターネットなどを利用して、勉強に関する情報を得ている」と回答している児童の割合が市の平均より高く、学習意欲が比較的高い児童が多いことがうかがえる。 ・4・5年生ともに、「できるだけ自分一人の力で課題を解決しようとしている」、「授業を集中して受けている」と回答している児童の割合が8割を超えている。 自力で課題解決にあたる時間が確保され、集中して学習に取り組む児童が多いことがうかがえる。 ・4・5年生ともに、「授業では、クラスの友達との間で話し合う活動をよく行っている」の割合が85%を超え、適切な学び合いの場が設定され、対話による課題解決が行われていることがうかがえる。 ・理科の学習においては、一人一台端末を活用し、実験・観察の記録を写真などを蓄積することで、様子の変化や実験の結果を児童が実感をもって捉えられるようになってきた。
分かる授業を目指した授業力の向上と基礎・基本の徹底	・主体的・対話的で深い学びの実現に向け、「宇都宮モデル」と「西が岡スタイル(つかむ、考える・つなぐ、まとめる、ふりかえる)」を取り入れた授業の実施 ・児童への言葉掛け、学習方法、教材、A型学習ドリルなど、個に応じた支援の工夫 ・課題提示、教材提示、発問の工夫(特別支援教育の視点を取り入れる。) ・児童の発言・考えをつなぐ教師のコーディネート力の向上 ・「めあて」「まとめ」「ふりかえり」を明記し、授業の流れや学びが見えるノート指導の工夫	・4・5年生ともに、「授業の中で目標(めあて・ねらい)が示されている」、「授業を集中して受けている」と回答している児童の割合が90%を超えている。また「友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができている」、「クラスは発言しやすい雰囲気である」、「授業で分からないことがあると、先生に聞くことができる」についても市の平均より高い。望ましい学習環境で、目的意識をもって授業に参加する児童が多いことがうかがえる。 ・4・5年生ともに、「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことはむずかしい」と回答している児童が70%を超えている。自分の考えをもち、まとめて表現することに課題があることがうかがえる。 ・4・5年生ともに、「先生は学習のことについて褒めてくれる」と回答している児童の割合が市の平均より高く、個に応じた支援が工夫されていることがうかがえる。
家庭学習の習慣化を図り、基礎学力の定着を図る	・各教科の基礎的な学習内容や話の聞き方、発言の仕方などの繰り返し指導 ・個人差に応じた適切な分量・内容の宿題、自主学習の仕方の支援による家庭学習の習慣化 ・学年・学級懇談会での保護者への家庭学習についての継続的な意識啓発活動	・4・5年生ともに、「家で、自分で計画を立てて勉強をしている」、「家で、学校やじゅくの決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている」と回答している児童が、市の平均より高い。望ましい家庭学習の習慣が身に付いてきている児童が多い。 ・4・5年生ともに、「学校の宿題の量はちょうどよいと思う」、「学校の宿題は、自分のためになっている」について、ほぼ全員が肯定的に回答している。個人差に応じた適切な分量・内容の宿題により、家庭学習が習慣化されていることがうかがえる。